

仙台傾聴の会 令和3年度 事業報告書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

1 事業実施の成果

令和3年度は、主な助成金として、復興庁「心の復興」被災者支援事業補助金、宮城県自死対策強化事業補助金、WAM助成(社会福祉振興助成事業)助成金など受けながら、活動を行いました。

今年度も長期化する新型コロナウイルス感染症の影響により、「施設訪問活動」についてはできませんでした。その他の活動については、感染状況をみながら、感染対策を講じ活動を行いました。

東日本大震災後から継続して行っている傾聴カフェは、仙台市、名取市、岩沼市、亶理町の各自治会の協力を得て実施しました。従前から実施の音楽を取り入れた「音楽カフェ」については、感染拡大が懸念されることから実施せず、その代替として、革ブローチ製作を実施しました。箱庭を活用した「箱庭カフェ」は実施しました。県内各所の他、福島県南相馬市においても実施し、より多くの方々と交流を図ることができました。

「個人宅訪問」「傾聴サロン」「電話相談」も実施。電話相談については、コロナ禍対応として、昨年度4月から電話回線を増設し、週6日(月曜日～土曜日)実施したことで、利用者の増大を図ることができました。

安否確認を兼ねた孤立防止策として「ふれあい電話サービス」も実施。

子育て支援事業については、「(仮称)新子育て応援団準備委員会」において、あり方を検討し、来年度活動開始予定となっています。今年度の活動はありませんでした。

傾聴ボランティア団体「みやぎ傾聴ネットワーク」とも積極的に連携を図り交流すると共に、研修会を開催するなどスキルアップに寄与しました。

人材育成面では、養成講座・入門講座を仙台市・名取市で開催。各市町村からの依頼により、傾聴ボランティア養成講座、基本講座を出前し、県内各地で実施することができました。会員スキルアップ研修は、当会理事鹿股英生氏を講師に『「付度」日本文化のひとつです』をテーマに1回開催。長期化するコロナ禍において、会員の士気高揚と活動再開に向けた学習効果となりました。また、電話相談体制の充実を図るため、電話相談養成講座を当会理事北條久也氏を講師に2日間コースで開催。また、電話相談研修(基礎編)やリーダー研修、現任者研修など合計18回開催し、電話相談員のスキルアップと増員に繋がりました。会員フォローアップ研修は、公営住宅傾聴カフェ現任者研修を開催し、傾聴カフェの現状と指針についてグループワークを行い課題等を共有しました。またメール相談研修を3回実施。来年度以降の体制構築に繋がりました。

公開講座は年2回開催し、現代の社会問題をテーマに、テーマ「引きこもりから回復は何か」をわたげの会理事長秋田敦子氏に、テーマ「子供相談支援の現状と不登校について」を仙台市子供相談支援センター長大友重明氏に、それぞれ講演を頂き、一般の方及び賛助会員等大勢の参加があり好評を博しました。

昨年に引き続き、研修部で取りまとめた会員の活動記録を各支部定例会で勉強会を行い、会員のスキルアップを図りました。

喫緊に解決しなければならない社会課題のために社会福祉法人宮城県共同募金が行っている支援活動「みやぎチャレンジプロジェクト」に参加しました。当会活動資金調達のため赤い羽根共同募金会と一緒に寄付の呼びかけを行いました。今年度は、イオン各店頭や街頭での募金活動は、コロナ禍の影響により中止としましたが、目標額100万円は達成することができました。

広報活動として、傾聴活動の報告と啓発を含めて、会報「傾聴だより」を年3回発行しました。

認定NPO法人化については、令和3年3月31日に認定の申請書を宮城県に提出。今年度に入り、宮城県から2回の聞き取りなどを経て、令和4年3月30日認定の通知が届き認定されました。

被災者の震災から10年の「心の状態」とコロナ禍に伴う行動変容などアンケート調査を行いました。7月にプロジェクトチームを立ち上げ、アンケート項目など検討し、対象を傾聴カフェ利用者の

他に、各市町の社会福祉協議会や県内傾聴ボランティア団体からのご協力を得て実施しました。（詳細については、別途冊子参照）

8月31日～9月5日の6日間、仙台市東北電力ビルアクアホールにおいて、「傾聴の広場」と題して、傾聴の普及及び啓発を目的に、震災から10年の活動記録のパネル展示を、県内傾聴ボランティア団体「みやぎ傾聴ネットワーク」と連携し開催しました。9月下旬にはワークショップ（傾聴入門講座・折り紙・箱庭カフェ）を開催しました。6月実行委員会を立ち上げ、何度となく集まり展示に向けての打ち合わせや展示品の作成にあたりました。

名取市協働提案事業を受託し、傾聴の普及、啓発を目的に、名取市内で、入門講座（11カ所）や対面相談、傾聴ボランティア養成講座を開催し、傾聴ボランティアの人材育成に努めました。

生活協同組合あいコープみやぎからの委託事業を受託し、「電話相談業務」を令和3年4月から令和4年3月で、毎月1回第2火曜日に活動を行いました。

みやぎの女性つながりサポート型支援事業を受託し、県南地域を対象に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、不本意に退職や収入減、苦境に陥ったなど、様々な困難な課題や不安を抱える女性や女の子を重点的に支援目的に、電話相談、対面相談、出張相談会、メール相談を行いました。また「岩沼子ども食堂プラス」には生理用品を配布しました。

12月全体会及びバザーを開催。昨年度は、コロナ禍の影響により開催中止となったことから、2年ぶりの開催となりました。内容は、会員が癒やしになるようと考え「ミニコンサート（ゲグゲロズリステン合唱団・クリスタルボウル）」を中支部担当で開催しました。参加者は76名。終了後、バザーを開催。バザー売上金46,678円、品物提供者は40名でした。

今年度も長期化するコロナ禍において、私たちボランティアに何ができるのか、議論を重ねてきました。模索しながらの活動が続いている中、昨年度4月電話相談の回線・相談日増設に伴い、今年度は電話相談体制の充実を図ることを目標に、電話相談員の人材育成に力を入れてきました。その効果として、電話相談件数の増大と相談員の増員があったことは、評価に値すると思います。また、各支部定例会で、支部毎に各施設等に「寄せ書き」や「年賀はがき」など作成しお渡し、施設側から喜ばれました。

メディアからは、8/11 tbc 東北放送Nスタみやぎ特集で、これまでの当会の被災者支援の活動が放送されました。9/5 河北新報に、仙台市東北電力ビルアクアホールパネル展示「傾聴の広場」が掲載されました。3/8には、tbc 東北放送ラジオに、森山代表が出演。当会活動を紹介しました。

また、今年度は、長年の念願であった認定NPO法人に認定されました。当会の公益性の高さと14年間の活動実績が認められたことは喜ばしいことですが、認定されたことで、新たなる自覚と決意を持ち更なる発展に努め取組を進めていくこととなります。

今年度も社会福祉の増進に寄与することを目標に、地域住民の心に寄り添い傾聴活動を推進しました。

※その他助成金先 ・オオバ町づくり基金助成金・ウエスレー財団助成金・日本郵便年賀寄付金配分金
・みやぎの女性つながりサポート型支援事業補助金・名取市協働提案事業業務委託金
・仙台市訪問型生活支援事業補助金・みやぎチャレンジプロジェクト配分金
・生活協同組合あいコープみやぎ助成金